

2015年2月12日
第6回知の市場年次大会

開講拠点 埼玉・狭山

開講機関：狭山商工会議所・狭山市

狭山商工会議所・狭山市産業労働センター
栗原博文

1. 機関紹介・活動趣旨

狭山商工会議所は、平成元年6月に商工会から商工会議所に改組した組織で、地域における経済団体である。現状約2200事業所の会員を有し、日々、中小企業を中心とする地域企業を支援し、地域の活性化に注力している。

「知の市場」では第6カテゴリーの「地域」に属し、地域における企業の活動・歴史の紹介、地域を担う次世代への経済教育の実施や、地域資源の活用、活性化を模索している。

2010年春に市内に工場を持つ綜研化学株式会社様から知の市場の趣旨並びに活動を伺い、当事業へのチャレンジを進められた。商工会議所と行政の担当課と協議を重ね、翌年、企業活動・経営・技術・歴史等の紹介を中心とする「知の市場・狭山を学ぶ・産業編 a」を開始、開講機関として地域の地域資源・企業活動や経営・技術等の現場基点の情報を広く一般市民の皆様に発信するとともに、次世代の人材を育成する一助となることをめざし、新科目を作り今日に至る。

2. 2014年度の開講実績

・狭山を学ぶ・企業編 b

狭山市内にある「狭山工業団地」およびその周辺に位置する企業の活動や歴史、経営・技術・将来を紹介し、広く市民等に企業の実の姿と活動内容を理解していただき、企業ファンを育成してきた。登壇する企業の経営者・技術者は所属する企業の持つ歴史や技術などを披瀝するが、企業規模によらずにそれぞれが多くの魅力を持ち、特に技術的には技術立国日本の先端を行く企業もあり受講者の関心を喚起している。

・狭山を学ぶ・ものづくり編 a ～アダムジャパン様との共同講座

株式会社アダムジャパンは、ビリヤード業界においてキュー製造の世界トップレベルの技術をもち、世界中のプロビリヤードプレーヤーやビリヤード愛好家に使われているキューを製造している。その企業が「ものづくり」の観点からキュー製造の技術を詳らかにし、さらに、国内では人口の少ないビリヤード愛好家を

育成すべく、いろいろな観点からビリヤードの魅力を伝えている。過去3年間実施し、2015年度で4回目となる。

・狭山を学ぶ・ものづくり編 b ～地域資源である狭山茶を学ぶ

狭山市及びその周辺の丘陵地帯を「狭山丘陵」と呼び、そこで栽培される「お茶」を「狭山茶」と呼ぶ。その歴史は江戸時代までさかのぼることができる。地域での有数な「地域ブランド」である。そのお茶を複数の角度から検証するとともに、茶業者の活動を披瀝し、お茶に対する再認識を図るきっかけとした。また、狭山茶のブランディングを再構築する活動も報告する。昨年に続き2年目で、一部改良して実施。

・狭山を学ぶ・キャリア教育編

キャリア教育という言葉が使われだして久しいが、狭山市では約10年前からキャリア教育として、小学5年生に自ら考え、活動する経済活動プログラム、「ビズ・キッズ」を実施してきた。知の市場では、その上の年齢層である中学生に対して、市内全域からのフリー参加として、「ビズ・キッズユース」を提供する。中学生が会社を立ち上げ、自らの意思決定で事業を実施し、お金の使い方を学ぶ場を作り、それらを現場・現物・現金の3現主義で、自己責任で運営するとともに、多くの大人との交流を実践する。

2010年度から2013年度まで知の市場として実施してきたが、2014年度は日程の問題で開催できず……。2015年度は再チャレンジする。

3. 問題点・今後の課題

狭山市では知の市場事業に取り組むに当たり、新カテゴリーの「地域」を新設いただき、着手いたしました。地域における様々な活動を顕在化する中で、会議所という「経済団体」という立場上経済面からのアプローチが強い状況です。

しかしながら、経済を中心としてみても、企業の歴史や現在の活動、また、人材という観点から見るとその視野は広がり、多くの課題やテーマが見えてまいります。

そのような中で、ご紹介できるものは限られますが、知の市場の原点である、・社学連系・現場基点・互学互教、を少しでも具現化するよう試行錯誤してまいりたいと考えます。

さらに、企業編cについては、過去の実績のあるコースとして、今後これをリニューアルして実施を模索していきたいと考えます。